

奥入瀬溪流の利活用検討 NEWS

(平成30年1月発行)

第5号

発行者：奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局（十和田市・青森県・国土交通省）

このニュースレターは、「今後の奥入瀬溪流の利活用」について、地域の皆さまとのコミュニケーションの状況を広くお知らせするために発行しています。

今後の奥入瀬溪流の利活用に向けて 奥入瀬・十和田地域の目指す姿 (奥入瀬ビジョン)

これまでもニュースレターなどでお伝えしてきましたが、現在、国道103号奥入瀬（青楓山）バイパスの整備が進められています。
あおぶなやま

バイパスが整備されると、道路空間を柔軟に使うことが可能になり、観光振興、ひいては地域づくりにも大きく影響します。そして、地域の皆さまの生活にも少なからず影響があると考えられます。

そこで、行政と地域の皆さまが一体となり、奥入瀬の交通規制だけでなく、観光振興、地域づくりまで含め、「**地域の目指す姿（＝奥入瀬ビジョン）**」の検討が進められています。

奥入瀬ビジョン

これまでの検討

平成27年度（予備検討）では、講演会とワークショップを3回、平成28年度では、ワークショップを3回行いました。（ニュースレター創刊号～4号参照）

平成29年度は、これまでにワークショップを5回、講演会を1回行いました。（4ページ表参照）

第4回～第7回では、奥入瀬ビジョンの実現に向けて、やりたいことは何か、その時の課題は何か、課題の解決にはどうしたらよいか、などをエリアごとや分野別に話し合いました。

また、第7回では講演会の講師の方からヒントやアドバイスもいただきました。（4ページ参照）

第8回では、これまでの検討を受け、事務局から示された奥入瀬ビジョン素案（一次案）、および戦略マップの内容について話し合いました。

奥入瀬ビジョン

今後の検討

ワークショップは第9回が最終回。奥入瀬ビジョン素案、および戦略マップの内容をさらに検討します。

その後、協議会が奥入瀬ビジョン案を作成し検討部会と調整。検討部会が承認し検討委員会へ報告。協議会は検討委員会からの助言等を踏まえ、奥入瀬ビジョンの修正・とりまとめを行います。（4ページ表参照）

とりまとめ結果は、ワークショップ参加者には報告会・交流会を予定するとともに、皆さまに公表します。

開くと
戦略マップ
がでてくるよ！

いよいよ

とりまとめの段階に！



国道103号奥入瀬（青楓山）バイパス事業

一般国道103号の十和田市青楓山～十和田市子ノ口（七曲）は、急勾配で道幅の狭い区間や通行規制区間があり、通行上の課題となっています。

奥入瀬（青楓山）バイパスは、それらの課題を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とする道路です。

平成25年度より、直轄権限代行事業として青森河川国道事務所が整備を進めています。

奥入瀬（青楓山）バイパスが整備されると

災害時に被災箇所を通らずに、安全な通行の確保が可能になります。

また、奥入瀬溪流沿いの自然環境が保全され、散策時の安全性や快適性が向上することも期待されます。



地域の目指す姿

& 戦略



奥入瀬ビジョン戦略マップ

第4回～第8回ワークショップで寄せられたご意見をもとに、事務局による奥入瀬ビジョン素案(一次案)を作成し、それを地図上に表したものが奥入瀬ビジョン戦略マップです。

※奥入瀬(青樺山)バイパス完成後を想定しています。
※エリアの項目は機能を示しています。
※現時点のもので、今後、修正の可能性があります。

白神山地との連携
(ブナ林など、共通する植生を介した連携)
至 白神山地、弘前

滝ノ沢
眺望ポイント

秋田県

大川谷 船着場

西湖畔との連携

西湖畔

十和田古道トレイル

発荷峠
眺望ポイント

御鼻部山
眺望ポイント

十和田湖と奥入瀬溪流の中継拠点

- 子ノ口
- ・立ち寄り、休憩拠点
 - ・シャトル・カートデポ
 - ・遊覧船との乗り換え拠点
 - ▼駐車場の不足→宇樽部で補完

森の神(ブナの巨木)
▼バイパス開通後、行きやすくなることによる環境保全エリアへの人・車の侵入

周辺温泉との連携
(癒しと健康回復)

▼交通の錯綜
(徒歩・散策は溪流沿い遊歩道)

奥入瀬溪流

天然の自然博物館

天然の自然博物館の通路空間
(移動、散策、休憩)
(カート駐車、自転車駐輪)

※1) 地域特有の自然・四季・景観などを静かな環境で鑑賞して楽しめる空間

下流
・森林が発達、車道と離れて散策できる
▼惣辺から焼山に向かう道は交通が錯綜

奥入瀬溪流 中流
・特徴的な溪流景観が楽しめる
▼車道に近く騒音、排ガスによる障害

上流
・高低差があり滝が多い
▼ハイシーズンは車と散策客が錯綜

- 宇樽部
- ・子ノ口の駐車場不足を補完
 - ・アクティビティ・レジャー拠点
 - ・キャンプ
 - ・レジャー客用飲食
 - ・居住・生活サービス

- 休屋
- ・一般車から降りてもらい滞在を促す
 - ・滞在・宿泊エリア・基本サービス
 - ・ガイド・ツアー・アクティビティ拠点
 - ・学習にきた人の滞在
 - ・滞在したくなる街並み
 - ・居住・生活サービス
 - ▼滞在型観光の推進、アクティビティの充実
 - ▼域内移動

広域交通を受け止める拠点

- ・秋田方面からの玄関口
- ・駐車、乗り継ぎ、休憩

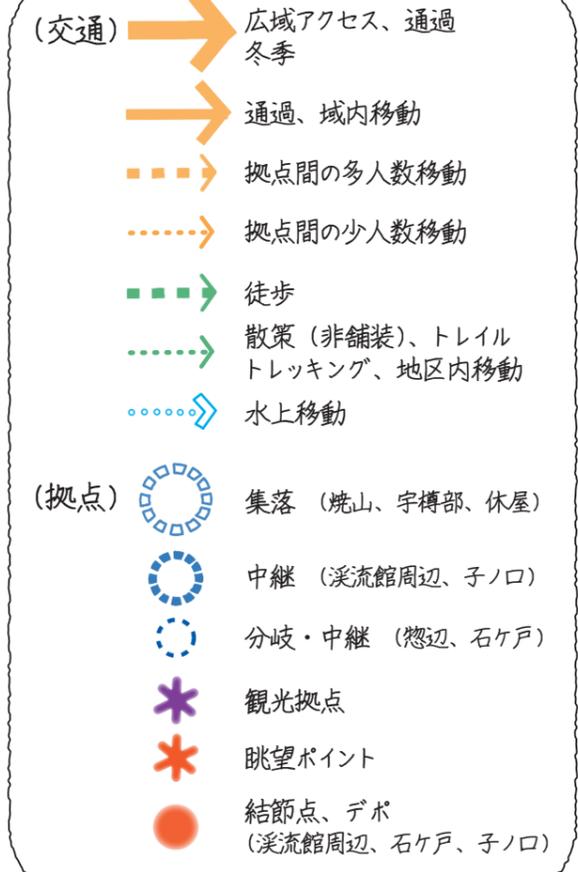
広域交通を受け止める拠点

- ・十和田・八戸からの玄関口
- ・駐車、八甲田への乗り継ぎ、休憩

- 焼山
- ・徒歩・自転車での域内移動
 - ・癒し系の拠点
 - ・滞在・宿泊・湯治・リゾート
 - ・学習にきた人の滞在
 - ・滞在したくなる街並み
 - ・別荘・地元就業者用居住・生活サービス
 - ▼域内徒歩移動の充実

- 溪流館周辺
- ・シャトル・カートデポ
 - ・ツアー・アクティビティ拠点

- 石ヶ戸
- ・シャトル・カート中継デポ
 - ・休憩
 - ・学習拠点



黒文字：交通
緑文字：観光
紫文字：環境
茶文字：その他
※) ▼は課題

国立公園特別保護地区
国立公園特別地域

※カート：電動カート等の小型低速車両をイメージ

● 地域にしかない魅力をひたすら発信し続ける

地域にしかない魅力の発信をひたすら繰り返すと、地域内外両方の人がその地域の独自性を認識するようになります。そのことを通じて、「地域に住む人を増やしていくこと」が観光の究極の役割です。

● 観光地域づくりの舵取り組織をつくる

地域内の利害関係者と協働し、魅力と統一性のある商品をつくり販売する牽引組織（DMO※）が必要です。この組織を通して、地域づくりの目的意識を共有することが重要です。

● 文化を1%優先する強い意志を持つ

持続可能な地域づくりにおいて、一番大切なのは「人」です。ビジネス 49%、文化 51%、文化を優先する 1%の壁を維持するという強い意志を持った人材を育成・確保する必要があります。

※DMO：Destination Management/ marketing Organization の略。日本版 DMO は、『地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人』（観光庁より）



高野賢一氏

埼玉県出身。大学時代より中山間地域の活性化に興味を持ち、北海道知床国立公園での自然観光に従事後、平成 16 年に飯山市に移住。同時になべくら高原・森の家勤務（当時は財団法人飯山市振興公社）。自然体験プログラム・着地型旅行商品企画のほか、宿泊施設の運営、信越トレイルの維持活用、自然ガイドの育成等を行っている。

平成 29 年度 奥入瀬ビジョンの検討体制

| 会議名 | 奥入瀬利活用 検討委員会 | 奥入瀬利活用 検討部会 | 奥入瀬 （事務局） | 奥入瀬 地域協議会 | ワークショップ |
|-------------------|-----------------|-----------------------|-------------------------|--------------------|-------------------------------------|
| 役割 | 奥入瀬ビジョン への助言 | 奥入瀬ビジョン素案 を調整のもと承認 | 事務局と連携し 奥入瀬ビジョン素案を作成 | | |
| 平成 29 年度 検討内容 | 検討結果 へ助言 | 検討結果 を報告 | 調整 | 調整 | ● 奥入瀬ビジョン案に関して意見だし |
| 戦略案の作成 | ● | ● | ■ ニュース レター 第 4 号 | ● 第 2 回 | ● 第 4 回：戦略案の検討 |
| 交通・観光計画案等 の作成 | ● | ● | | | ● 第 5 回：戦略案の課題の検討 |
| 戦略案の見直し | ● | ● | | | ● 第 6 回：エリア・分野別の検討 |
| 奥入瀬ビジョン のとりまとめ | ○ 検討委員会 | ○ 検討部会 | ■ ニュース レター 第 5 号 | ● 第 3 回 ○ 第 4 回 | ● 第 7 回：講演会、および 課題解決の検討 |
| | | | □ ニュース レター 第 6 号 | ○ 第 5 回 | ● 第 8 回：ビジョン素案の検討 ☆ 今はここ! |
| | | | | | ○ 第 9 回：ビジョン素案の検討 |
| | | | | | ○ 報告会・交流会 |

平成 30 年 4 月ごろ

奥入瀬ビジョン

これまでに開催されたワークショップ概要、ニュースレター創刊号～4号、国道103号奥入瀬（青楓山）バイパスの事業概要、奥入瀬溪流エコロードフェスタ情報については、下記サイトにて公開されています。

「国道102号（奥入瀬溪流）の利活用に関する取組みについて紹介します」（青森県ホームページ）

<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/doro/oirase-r102.html>

お問い合わせ先

より良い
「奥入瀬ビジョン」
策定に向け、
今後ともよろしく
お願いいたします

- * 奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局
- * ・十和田市 観光推進課 TEL：0176-51-6772
- * ・青森県 道路課 整備推進グループ TEL：017-734-9651
- * ・国土交通省 青森河川国道事務所 調査第二課 TEL：017-734-4570